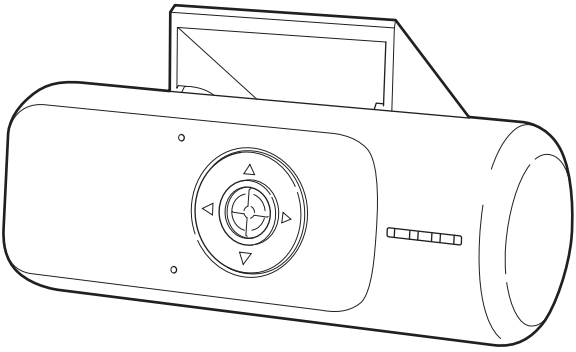
OPTEX

DRIVE VIEWER

DV-01

取扱説明書



ステップ1

まずはここからお読みください！

はじめに.....2ページ

安全上のご注意.....4ページ

ステップ2

自動車に取り付けよう！

本体を取り付ける.....9ページ

ステップ3

日時や感度などを設定しよう！

本体を設定する.....14ページ

画角を調整する.....18ページ

ステップ4

走行しよう！

走行する（画像記録）....20ページ

運転状況を確認する....21ページ

ステップ5

画像をモニターで見てみよう！

車載モニターで記録画像を見る..22ページ

家庭用テレビで記録画像を見る..24ページ

ステップ6

困ったときにお読みください！

仕様.....28ページ

困ったときは.....29ページ

- この度はDV-01をお買い上げいただきましてありがとうございます。
- お取り付けになる前に、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 取扱説明書は、車検証と併せて、いつでも見られるところ（自動車のダッシュボード内など）に大切に保管してください。

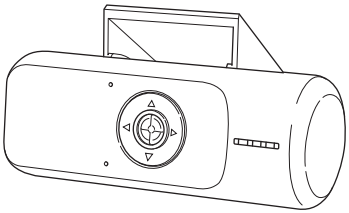
この取扱説明書は再生紙を利用しております。

ステップ1

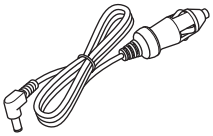
はじめに

梱包内容の確認

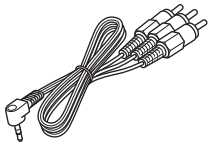
お使いになる前に、本体と付属品が揃っているか、また破損していないかお確かめください。



本体

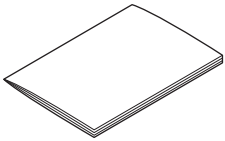


専用電源ケーブル



専用AVケーブル

配線クリップ　10個



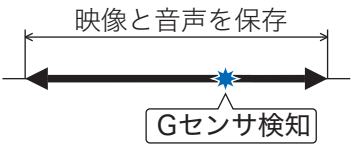
取扱説明書(本書)

両面テープ

本製品について

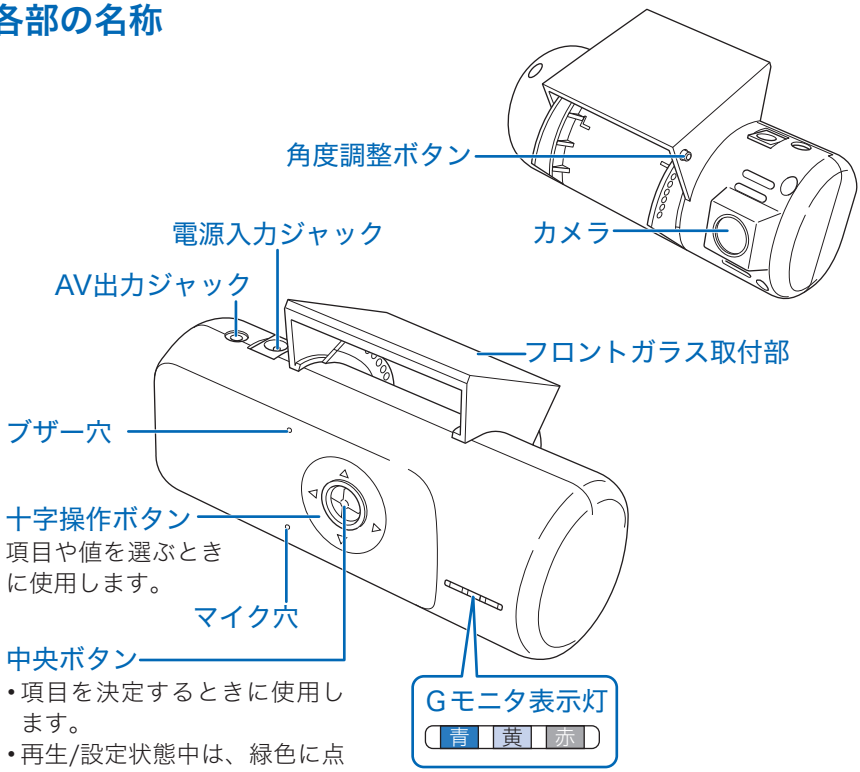
本製品は自動車のフロントガラスに取り付け、急な操作(急アクセル、急ブレーキ、急ハンドル)や、交通事故などでの運転の状況や周囲の画像を記録する機器です。

■本製品の特徴



- Gセンサ(加速度センサ)検知時の前8秒後5秒(計13秒)の映像と音声を記録し、本体に保存します。
- 本製品を市販のカーナビゲーションなどの車載モニターおよびオーディオや、家庭用テレビに接続して、記録画像を再生できます。
- 広範囲の画像が見られるカメラを内蔵しています。
- 自動車の安定状態がひと目でわかるGモニタ表示灯を内蔵しています。
- ボタン操作により手動で画像と音声を記録できます。
- 自動車との接続には付属の専用ケーブルを使用します。複雑な配線やわずらわしいハンダ付けの必要はありません。

■各部の名称



文中では各ボタン操作を次のイラストで示しています。

中央ボタンを押す　十字操作ボタンを押す

※ 押す方向を▲で示しています。

例)上を押す

■本製品の状態

本製品には、次の2つの状態があります。

- **記録動作状態**
  走行して画像と音声を記録できます。またGモニタ表示灯で運転状況を確認できます。
- **再生/設定状態**
  本製品に接続した市販の車載モニターを利用して、記録画像を再生できます。また、日時や操作音量、Gセンサ(加速度センサ)の感度を設定できます。

安全上のご注意

この取扱説明書の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。十分ご理解の上、本書をお読みください。

危険 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷する可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

必ず守らなければならない注意事項や制限事項、知っておくと役に立つ内容を示しています。

⃠記号は禁止を示しています。図の中には具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を示しています。図の中には具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコネクタから抜く)が描かれています。

取り付けに関する注意事項

取り付けに関する注意事項を記載しています。必ずお守りください。

危険

運転や視界を妨げる場所に取り付けない
ハンドルやシフトレバー、ブレーキペダルの付近などの運転に支障をきたす場所、前後左右の視界を妨げる場所には取り付けないでください。交通事故やけがの原因になります。

エアバックの動作を妨げる場所に取り付けない
エアバックが正常に動作しない恐れのある場所、動作したエアバックで本製品や部品が飛ばされる恐れのある場所には取り付けないでください。事故やけがの原因になります。
また、作業をはじめる前に自動車メーカーにエアバック関連の注意事項を確認してください。

警告

DC 12 ～ 24 V マイナスアース車で使用する
本製品はDC 12 ～ 24 V マイナスアース車専用です。それ以外の自動車では使用しないでください。火災や故障の原因になります。

本製品を確実に取り付ける
しっかり取り付けていないと、走行中にはずれたり、落下するなど、事故やけがの原因になります。また、他の物を破損させる恐れがあります。
万一落下した場合は、急停車すると事故の原因になりますので、慌てずに周囲を確認してから安全な場所に停車してください。

濡れた手で配線しない
濡れた手で配線しないでください。感電の原因になります。

分解・改造しない
分解や改造は危険ですのでおやめください。火災や感電の原因になります。

注意

専用ケーブルを使用する
本製品と自動車との接続には、必ず付属の専用電源ケーブルおよび専用AVケーブルを使用してください。それ以外のケーブルを使用すると、火災や故障の原因になります。

ケーブルを傷つけたりショートさせない
専用電源ケーブルおよび専用AVケーブルを扱う際は、次のようなことをしないでください。断線やショートにより、火災や感電、事故の原因になります。
傷つける、引っ張る、折り曲げる、ねじる、加工する、重い物を置く、熱器具へ近づける、自動車の高温になる部分に接触させるなど

ケーブルに負荷をかけない
車体やネジ、シートレールなどの可動部に挟まないでください。また、ドライバーなどの先端で押し込まないでください。
ケーブルを抜くときは、プラグ部分を持って抜いてください。
断線やショートにより、火災や感電、事故の原因になります。

ご使用に関する注意事項

ご使用に関する注意事項を記載しています。必ずお守りください。

危険

運転中に本製品を注視しない
走行中にGモニタ表示灯を注視しないでください。前方不注意による事故の原因になります。

運転者は走行中に操作しない
走行中の操作は、前方不注意による事故の原因になります。必ず安全な場所に停車し、サイドブレーキを引いた状態で操作してください。
また、手動録画をするときは、周囲の安全を十分に確認した上で、素早く操作してください。

警告

本製品を濡らさない
感電や故障の原因になります。
本製品は防水仕様ではありません。水滴などがかかったときは、すぐに吸水性のある柔らかい布で拭いてください。

本製品に強い衝撃を与えない
走行中にはずれたり、落下するなど、事故やけがの原因になります。また、他の物を破損させる恐れがあります。

異常なときは専用電源ケーブルをはずす
万一煙が出たり、変な臭いがするなどの異常状態が起こったときは、すぐにエンジンを切った後で専用電源ケーブルをはずしてください。異常状態がおさまったことを確認してから、販売店にご連絡ください。お客様自身による修理は、危険ですのでおやめください。
異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら本体や付属品などには手を触れない
落雷による感電の恐れがあります。

本製品を火に近づけたり、火の中に投げ込まない
火災やけがの原因になります。

■取り扱い上の注意

本体の汚れは柔らかい布で乾拭きするか、中性洗剤を薄めた水で湿らせた布をよく絞って拭き取ってください。

警告　アルコール、シンナー、ベンジンなどの引火性溶剤は使用しないでください。火災の原因になります。

■その他の注意

- 記録された画像や音声は、示談交渉や法的手続等において、事故の参考記録として有効に使用していただくことができますが、紛争解決の直接的証拠としての採用が保証されるものではありません。
- 本製品を本来の使用目的以外では使用しないでください。本製品の使用、または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、記録内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品は、自動車の揺れや危険な挙動（急ブレーキ・急ハンドルなど）の衝撃を検知して画像や音声を記録する装置ですが、すべての状況で画像や音声を記録することを保証したものではありません。次のような場合は、衝撃が検知できず、画像や音声を記録できない恐れがあります。
  ・衝撃が弱く、Gセンサ（加速度センサ）の感度設定に満たない場合
  ・本製品の本体が確実に固定されていない、角度が調整されていないなど、本製品が正しく取り付けられていない場合
  ・大きな事故や水没などで、本製品が破損した場合
- 画像や音声が記録されなかった場合や、本体に保存されたデータの消去、破損について当社は一切の保証をいたしません。
- LED信号機は、目に見えない速さで点滅しているため、記録画像の信号が高速点滅して映る場合があります。信号が映っていない瞬間の画像は、前後の画像や周辺の車両の状況で判断してください。LED式信号機が映らない問題に関して、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本製品の仕様は、改良のため予告なしに変更することがあります。

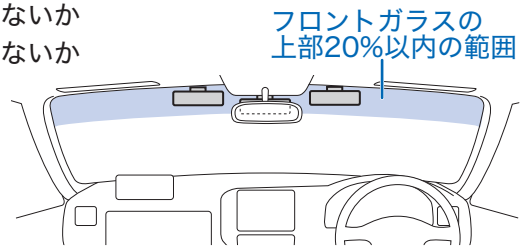
ステップ2

本体を取り付ける

取り付けのポイント

本体はフロントガラスに取り付けます。取り付ける前に、次のポイントを参考に取付位置を決定してください。

- 本体がルームミラーに触れていないか
- 運転手の視界の妨げになっていないか
- 運転席からGモニタ表示灯の確認ができるか
- フロントガラスの上部20%の範囲か



注意 国土交通省告示の保安基準で、フロントガラスへの取り付けは、上部20%以内の範囲に定められています。それ以外の部分には絶対に取り付けないでください。

トップシェード付きのフロントガラスに取り付けると、色合いが異なって見えることがあります。

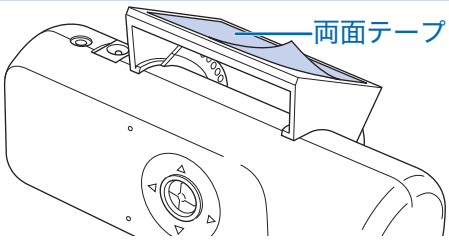
本体を自動車に取り付ける

「安全上のご注意」➔4ページをよくお読みになり、必ずお守りください。

1 フロントガラスを拭き、油分や水分を取り除く

2 付属の両面テープで本体をフロントガラスに取り付ける

① 両面テープの一方の裏紙をはがし、フロントガラス取付部に貼り付けます。
② もう一方の裏紙をはがし、フロントガラスに貼り付けます。



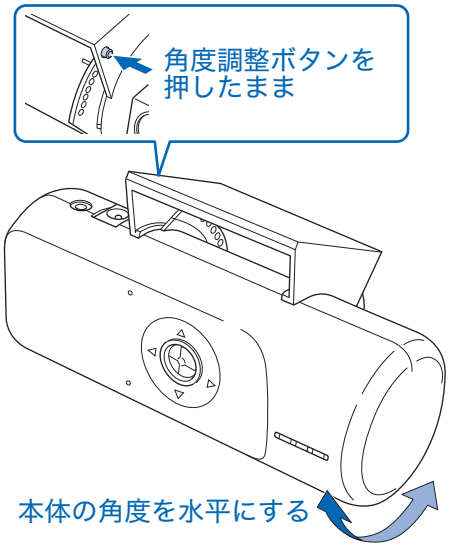
警告 ステッカーやフィルム、ガラスの傷等で凹凸のある部分には取り付けないでください。落下する恐れがあります。

注意　テレビアンテナの上に貼ると、テレビの受信に影響する恐れがあります。テレビアンテナを避けて貼り付けてください。

- 本体の影で運転席の視界の妨げにならない場所に取り付けてください。
- 低温時は両面テープの粘着力が極端に弱くなりますので、常温に温めてから貼り付けてください。

3 本体の角度を水平にする

① 角度調整ボタンを押したまま、本体の角度がほぼ水平になるように回します。
② 角度の調整が終わったら、角度調整ボタンから指を離します。
③ 本体を軽く回し、確実に取り付いていることを確認します。本体が回る場合は、「カチッ」と音がするまで本体を回します。

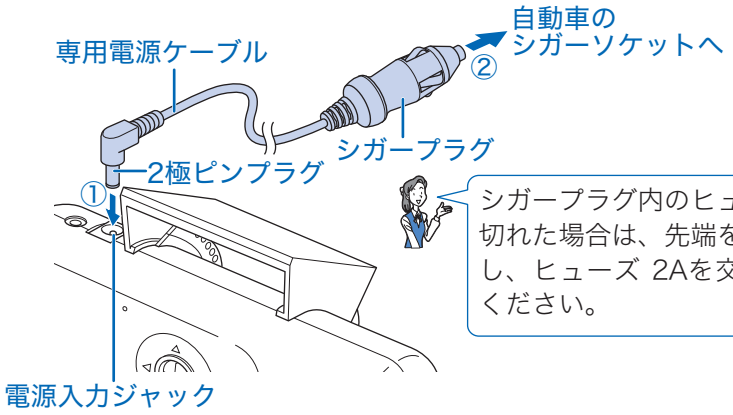


注意　本体がフロントガラス取付部に正しく取り付けられていない場合は、電源投入後に中央ボタンが緑色に点灯し、5秒後に「ピッピッピッ・・・」と鳴ります。この状態では、記録動作ができませんので、注意してください。

- 本体を手前に回しすぎると、フロントガラス取付部から本体が外れますので、注意してください。本体が外れた場合は、「本体をフロントガラスに戻す」➔27ページを参照してください。
- 本体の角度は、車載モニターに接続後、画角確認画面を見ながら調整してください。「画角を調整する」➔18ページ参照

4 専用電源ケーブルを接続する

① 2極ピンプラグを本体の電源入力ジャックに差し込みます。
② シガープラグを自動車のシガーソケットに差し込みます。



シガープラグ内のヒューズが切れた場合は、先端を取り外し、ヒューズ 2Aを交換してください。

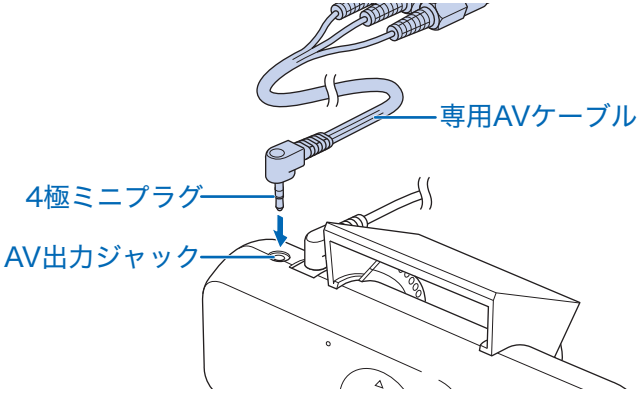
- シガーソケットの形状を確認してください。外国産車など一部の自動車には、専用電源ケーブルのシガープラグと適合しない場合があります。
- シガーライター付近に障害物などがあり、シガーソケットを奥まで確実に差し込めない場合は、市販の分配/延長ソケットを利用してください。

⚠ 注意

エンジンキーを抜いてもシガーソケットから電源が供給される車種の場合は、本製品を使用しないときは必ず専用電源ケーブルをシガーソケットから抜いてください。バッテリーが上がる恐れがあります。

5 専用AVケーブルを接続する

① 4極ミニプラグを本体のAV出力ジャックに差し込みます。

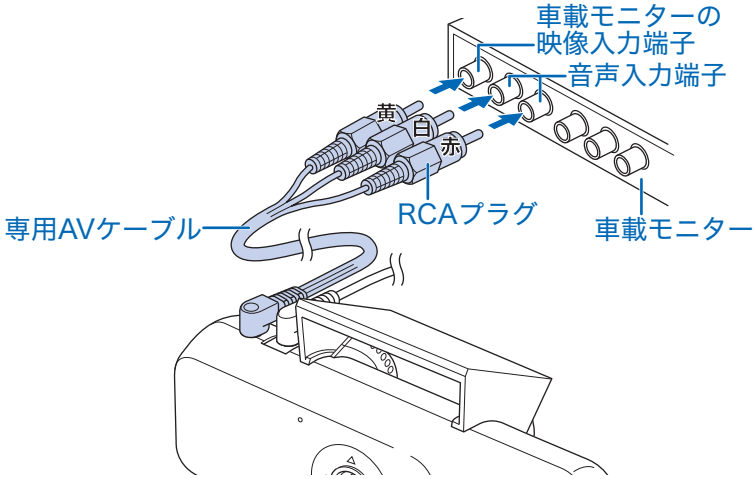


② 専用AVケーブルを市販の車載モニターに接続します。
使用する車載モニターによって、専用AVケーブルの接続方法が異なります。

- 事前に、接続する機器の説明書をよくご覧になり、接続方法を確認してください。また、配線工事が必要な場合は、車用品店などの専門業者に依頼してください。
- 本体を取り外し、家庭用テレビと接続して記録画像を見ることもできます。ただし、AC電源用ケーブル(別売)が必要です。
「家庭用テレビで記録画像を見る」➔24ページ参照

車載モニターに映像・音声入力端子がある場合

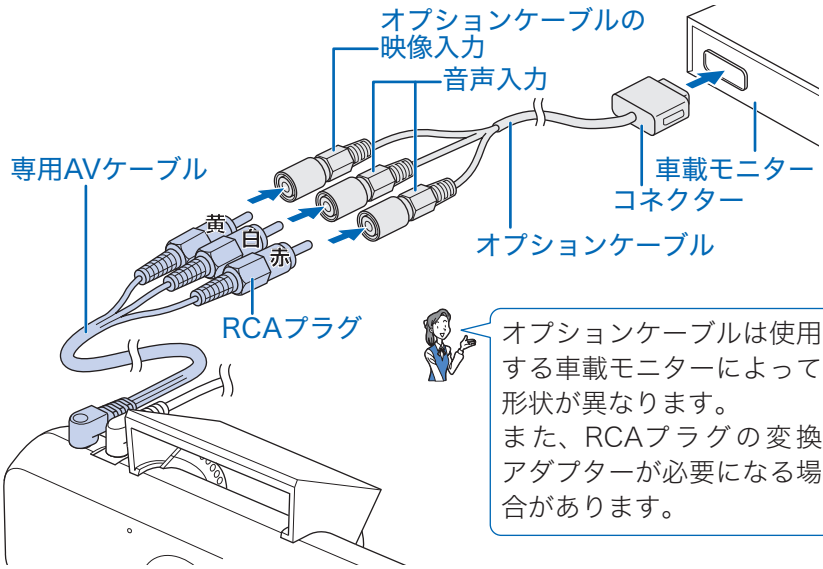
専用AVケーブルのRCAプラグを市販の車載モニターの映像入力端子および音声入力端子に差し込みます。



車載モニターに映像・音声入力端子がない場合

車載モニターの製造メーカーが推奨するオプションケーブルが必要です。最寄りの車用品店またはカーディーラー店などで購入してください。一部、オプションケーブルが接続できない機種もあります。

専用AVケーブルのRCAプラグをオプションケーブルの映像入力および音声入力に差し込み、オプションケーブルのコネクターを市販の車載モニターに差し込みます。



オプションケーブルは使用する車載モニターによって形状が異なります。
また、RCAプラグの変換アダプターが必要になる場合があります。

6 動作を確認する

本体の取り付けとケーブルの接続が正しくできているか、本体が壊れていないかなど、次のポイントを参考に正しく動作するかを確認してください。

- エンジンを始動すると本体に電源が入るか
- Gモニタ表示灯が正しく点灯・点滅・消灯しているか
- 操作音・トリガ音が正しく鳴っているか
- 試乗の上、Gセンサ(加速度センサ)が正しく動作しているか
- 自動録画で画像が記録できているか
- 中央ボタンで画像が記録できているか

正しく動作しないときの対処方法は、「困ったときは」➔29ページを参照してください。

ステップ3

本体を設定する

危険

運転者は走行中に操作しない

走行中の操作は、前方不注意による事故の原因になります。必ず安全な場所に停車し、サイドブレーキを引いた状態で操作してください。

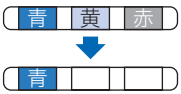
「ステップ2 本体を取り付ける」➔9 ～ 13ページを終わらせ、正常に動作することを確認してください。

メイン画面を表示する

1 本体の電源を入れる

① エンジンキーを「ON」にし、エンジンを始動します。
② 本体の電源が入り、Gモニタ表示灯の全ての色（青・黄・赤）が点灯します。
③ 約10秒後、青色のみの点灯に変わり、記録動作状態を示します。

Gモニタ表示灯



※ 電源投入時に「ピピピピピ」と鳴った場合は、長期間電源を入れなかったため、時計がリセットされています。日時を設定してください。（➔16ページ）

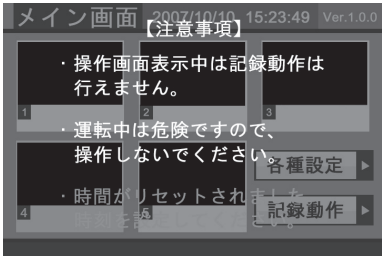
2 を約2秒長押しする

中央ボタンが緑色に点灯します。

Gモニタ表示灯の青色が消灯します。

注意画面が約2秒間表示された後、メイン画面に切り替わります。

注意画面



約2秒後

メイン画面

■メイン画面

で画像やボタンを選び、で決定します。

①日時表示

現在の日時が表示されます。

②バージョン表示

ソフトウェアのバージョンが表示されます。

③記録画像

選んだ画像の再生画面に切り替えます。

「ステップ5 記録画像を見る」➔22ページ参照

④[各種設定]

各種設定画面に切り替えます。

「日時・操作音量・感度を設定する」➔16ページ参照
「画角を調整する」➔18ページ参照

⑤[記録動作]

記録動作状態に切り替えます。

メイン画面で30秒間操作をしなかった場合は、自動的に記録動作状態に切り替わります。

日時・操作音量・感度を設定する

1 メイン画面で を押して[各種設定]を選び、 を押す

「メイン画面を表示する」
➔14ページ参照

各種設定画面に切り替わります。

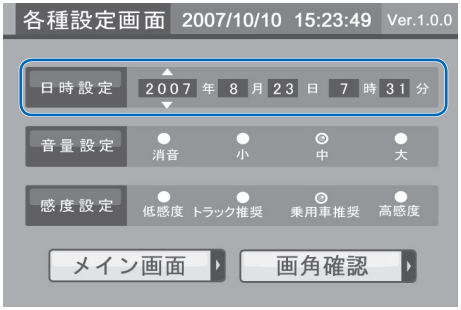
2 日時を設定する

① で[日時設定]を選びます。

② で「年」を選び、 で値を変更します。

現在選択されている項目に、▲▼が表示されます。

③ 同じように②を繰り返して、「月」「日」「時」「分」も設定します。



④ を押すと設定が確定します。

3 ボタンの操作音量とブザー音量を設定する

① で[音量設定]を選びます。

② で音量を選びます。

③ 他の項目に移動すると設定が確定します。

4 Gセンサ(加速度センサ)の感度を設定する

① で[感度設定]を選びます。

② で設定を選びます。

低感度	通常運転時に自動車の揺れが大きく、小さな衝撃でもGセンサ(加速度センサ)が検知する場合
トラック推奨	トラックに取り付ける場合
乗用車推奨	乗用車に取り付ける場合
高感度	自動車の揺れが小さく、危険な挙動(急ブレーキ・急ハンドルなど)を起こしてもGセンサ(加速度センサ)が検知しない場合

③ 他の項目に移動すると設定が確定します。

5 を押して[メイン画面]を選び、 を押す

メイン画面に切り替わります。

- 各種設定画面で30秒間操作しなかった場合は、自動的にメイン画面に切り替わります。
- で[画角確認]を選んで を押すと、画角確認画面に切り替わります。

画角を調整する

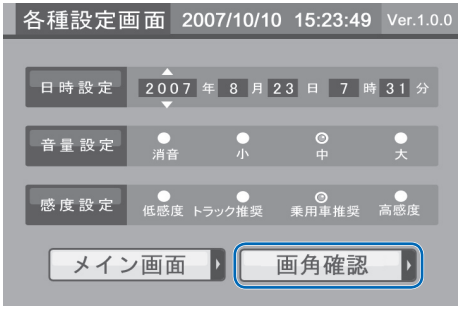
1 メイン画面で を押して[各種設定]を選び、 を押す

「メイン画面を表示する」
➔14ページ参照

各種設定画面に切り替わります。

2 を押して[画角確認]を選び、 を押す

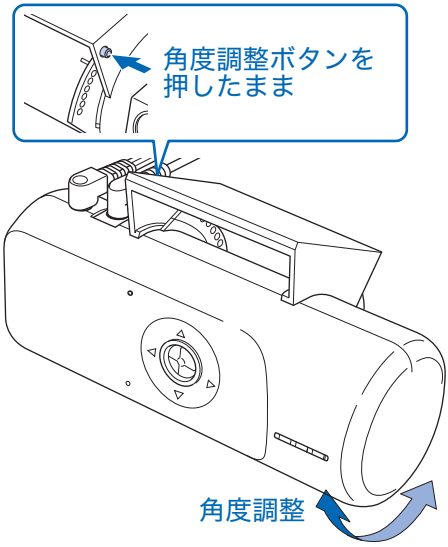
画角確認画面に切り替わり、
メッセージが表示されます。



3 画角を調整する

① 角度調整ボタンを押したまま、画角確認画面を見ながら本体の角度を調整します。
② 角度の調整が終わったら、角度調整ボタンから指を離します。

画角確認画面



- 角度によってはフロントガラス取付部が映りますが、異常ではありません。
- 本体を手前に回しすぎると、フロントガラス取付部から本体が外れますので、注意してください。本体が外れた場合は、「本体をフロントガラスに戻す」➔27ページを参照してください。

注意　本体がフロントガラス取付部に正しく取り付けられていない場合は、電源投入後に中央ボタンが緑色に点灯し、5秒後に「ピッピッピッ・・・」と鳴ります。この状態では、記録動作ができませんので、注意してください。

4 を押す

各種設定画面に切り替わります。

画角確認画面で30秒間操作をしなかった場合は、自動的に各種設定画面に切り替わります。

5 を押して[メイン画面]を選び、 を押す

メイン画面に切り替わります。

6 を押して[記録動作]を選び、 を押す

記録動作状態に切り替わります。

ステップ4

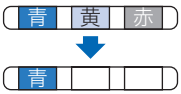
走行する(画像記録)

本製品の運用を開始する前に次の方法を試し、正常に動作することを確認してください。

1 エンジンを始動する

① エンジンキーを「ON」にし、エンジンを始動します。
② 本体の電源が入り、Gモニタ表示灯の全ての色(青・黄・赤)が点灯します。
③ 約10秒後、青色のみの点灯に変わり、記録動作状態を示します。

Gモニタ表示灯



※ 電源投入時に「ピピピピピ」と鳴った場合は、長期間電源を入れなかったため、時計がリセットされています。日時を設定してください。(➔16ページ)

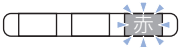
2 走行する(画像記録)

走行時に画像を記録するには、自動録画と手動録画の2通りの方法があります。

自動録画

- Gセンサ(加速度センサ)が危険な挙動(急ブレーキ・急ハンドルなど)を検知したときに、自動的に前後の画像が録画されます。
- 「ピッピッ」と音が鳴り、Gモニタ表示灯の赤色が点滅します。

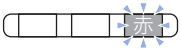
Gモニタ表示灯



手動録画

- を押したときに、前後の画像が録画されます。
- 「ピッピッ」と音が鳴り、Gモニタ表示灯の赤色が点滅します。
- 軽微な当て逃げなど、Gセンサ(加速度センサ)が検知しなかったときに使用します。また、事故の目撃時などにも使用できます。

Gモニタ表示灯



⚠警告 中央ボタンを使用するときは、周囲の安全を十分に確認した上で、本体に近い方の手をハンドルから離し、素早く押してください。

3 エンジンを停止する

エンジンキーを「OFF」にします。

> **注意**
> エンジンキーを抜いてもシガーソケットから電源が供給される車種の場合は、本製品を使用しないときは必ず専用電源ケーブルをシガーソケットから抜いてください。バッテリーが上がる恐れがあります。

運転状況を確認する

Gセンサ(加速度センサ)で検知した挙動をもとに、Gモニタ表示灯を瞬時に表示します。
自動車が安定した走行状態にあるかをその場で把握することができます。

Gモニタ表示灯
青 黄 赤

青色	安定した運転をされています。このまま安全運転を維持してください。
黄色	自動車の揺れがやや大きいです。安定した運転を心がけてください。
赤色	自動車の揺れが大きいです。ゆとりのある運転を目指してください。

ステップ5

車載モニターで記録画像を見る

1 車載モニターの入力切替を「外部入力(VTR)」に合わせる

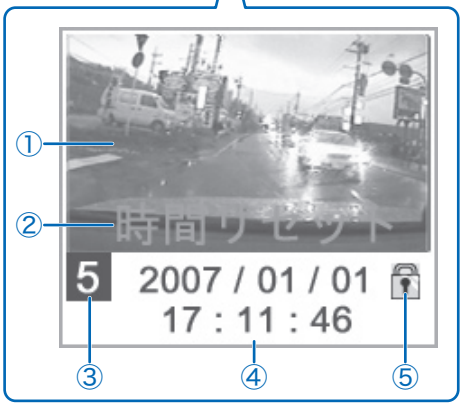
車載モニターによっては、サイドブレーキを引かないと画像が映らない場合があります。

2 メイン画面で を押して記録画像を選び、 を押す

「メイン画面を表示する」
➔14ページ参照

再生画面に切り替わり、再生が開始されます。

記録画像は、メイン画面に一覧表示されます。



①検知時静止画
Gセンサ(加速度センサ)が検知したときの画像(静止画)が表示されます。

②時計リセット
日時の設定をしていな状態や長期間電源を入れなかったため、時計がリセットされた状態で画像を記録したときに表示されます。

③画像番号
1～5番まで記録されます。
録画するたびに古いものから順に上書きされます。

④検知日時
Gセンサ(加速度センサ)が検知したときの時間が表示されます。

⑤保護マーク
記録画像を保護すると表示されます。保護した画像は上書きされません。
2シーンまで保護可能です。

3 記録画像を見る

①記録画像
繰り返し再生されます。

②イベント名
検知時の挙動内容(急アクセル、急ブレーキ、急ハンドル)、または手動記録が表示されます。

③記録時刻
実際の記録時刻が表示されます。

④保護マーク
記録画像を保護すると表示されます。保護した画像は上書きされません。

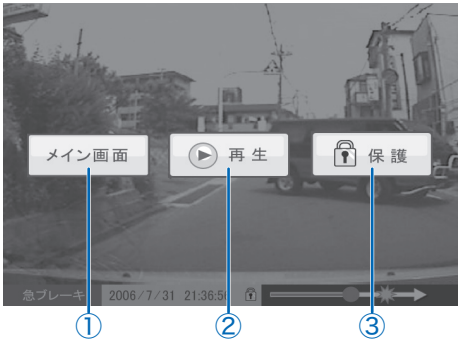
⑤タイムバー
実際の記録時刻に合わせて■が進みます。検知の瞬間を✸で示します。

- 車載モニターによっては、画像の上下が一部切れる場合があります。
- ②～⑤の配置は、○を押して画面上または下に切り替えることができます。

再生中に○を押すと次のシーン、○を押すと前のシーンを再生します。

4 ○を押す

次の画面が表示されます。○を押してボタンを選び、○を押します。



①[メイン画面]
再生を終了し、メイン画面に切り替わります。

②[再生]
再度再生を開始します。

③[保護]
再生中の画像を保護します。
確認画面が表示されるので、[はい]を選びます。
2シーンまで保護できます。

※保護を解除する場合は、再度[保護]を選び、確認画面で[いいえ]を選びます。

5 メイン画面で○を押して[記録動作]を選び、○を押す

記録動作状態に切り替わります。

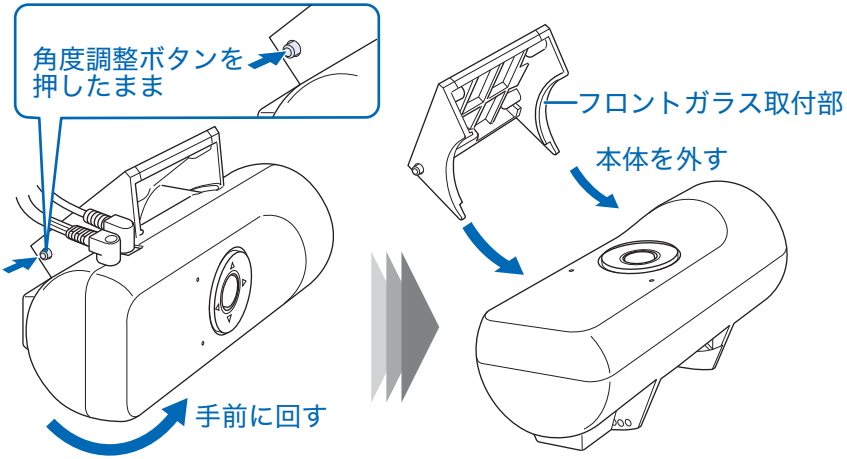
家庭用テレビで記録画像を見る

家庭用テレビで記録画像を見る場合は、AC電源用ケーブル(別売)が必要です。販売店または当社で購入してください。

■本体をフロントガラスから外す

1 本体をフロントガラス取付部から外す

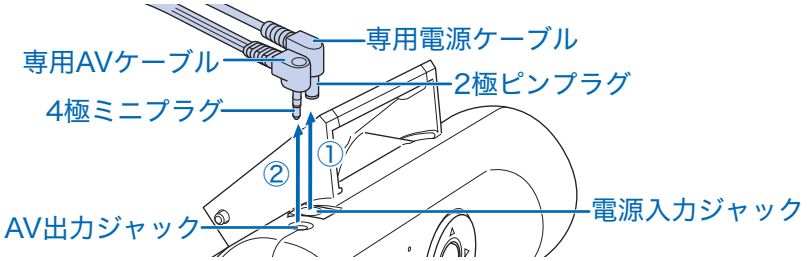
角度調節ボタンを押したまま、本体がフロントガラス取付部から外れるまで手前に回します。



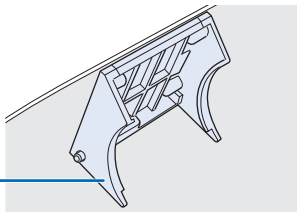
2 専用電源ケーブルおよび専用AVケーブルを本体から外す

① 専用電源ケーブルの2極ピンプラグを本体の電源入力ジャックから外します。

② 専用AVケーブルの4極ミニプラグを本体のAV出力ジャックから外します。



フロントガラス取付部は、フロントガラスに取り付けたままにしておきます。



注意　ドライブレコーダー本体は、車のフロントガラス上部20%以内の範囲に取り付けておけば問題ありませんが(国土交通省告示の保安基準による)、その他基準外のものを常時フロントガラスに取り付ける場合(フロントガラス取付部のみをフロントガラスに取り付た場合などを含む)は、保安基準に抵触する可能性があります。

3 専用AVケーブルを車載モニターから外す

専用AVケーブルのRCAプラグを市販の車載モニターから外します。
「ステップ2 本体を取り付ける」の手順5(➔11、12ページ)参照

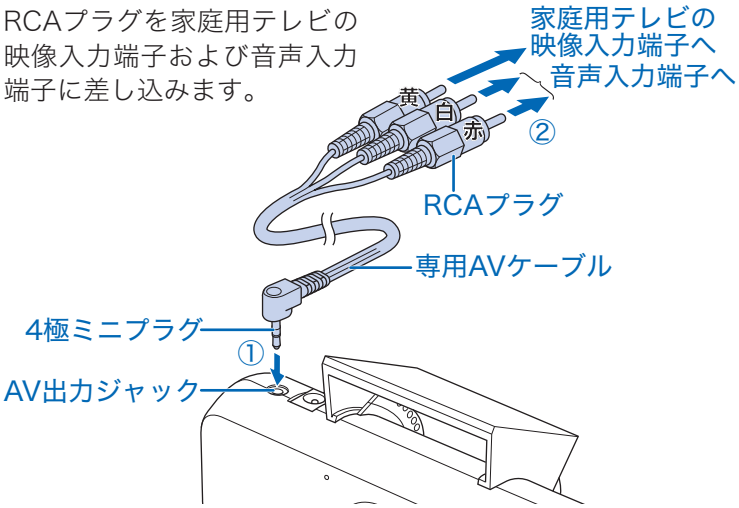
外した専用AVケーブルは、家庭用テレビに接続するときに使用します。

■本体を家庭用テレビに接続して記録画像を見る

1 家庭用テレビの入力切替を「外部入力(VTR)」に合わせる

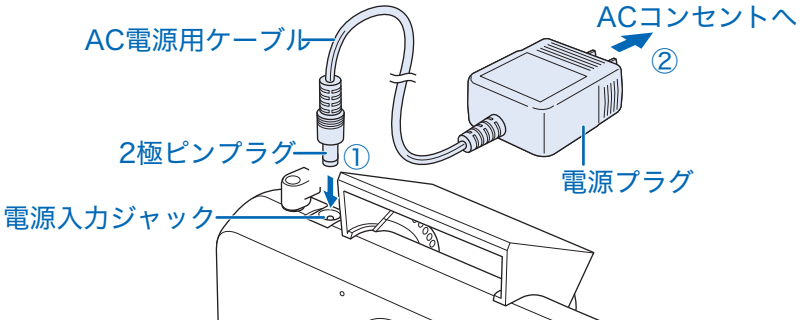
2 専用AVケーブルを接続する

① 4極ミニプラグを本体のAV出力ジャックに差し込みます。
② RCAプラグを家庭用テレビの映像入力端子および音声入力端子に差し込みます。



3 AC電源用ケーブルを接続する

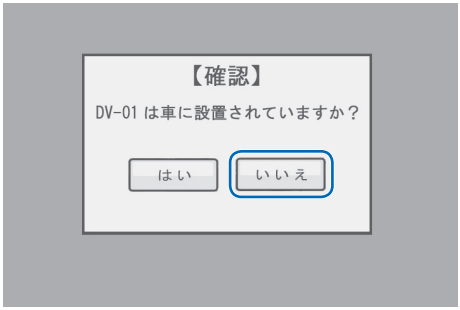
① 2極ピンプラグを本体の電源入力ジャックに差し込みます。
② 電源プラグをACコンセントに差し込みます。



4 本体に電源が入ると確認画面が表示されるので、[いいえ]を選び、を押す

[はい]を選んだり、5秒間操作をしなかった場合は、「ピッピッピッ・・・」と鳴ります。

※[はい]を選んだ場合は、を長押しすると鳴り止みます。



本体をフロントガラス取付部から外した状態では、自動的に再生/設定状態になり、記録はできません。

5 記録画像を見る

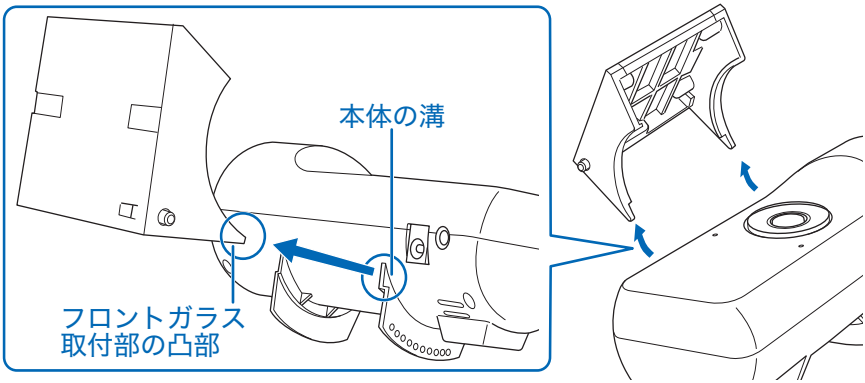
記録画像の見かたは、本体を自動車に取り付けたまま市販の車載モニターで見る場合と同様です。

「ステップ5 記録画像を見る」➔22ページ参照

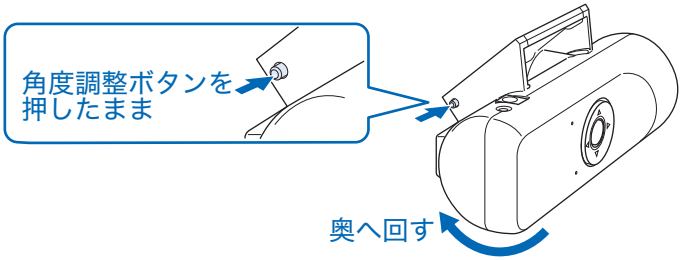
■本体をフロントガラスに戻す

1 本体をフロントガラス取付部に戻す

① 図のように本体の溝をフロントガラス取付部の凸部に当て、円弧を描くように差し込みます。



② 角度調整ボタンを押したまま、本体の角度がほぼ水平になるように奥へ回します。



③ 角度の調整が終わったら、角度調整ボタンから指を離します。
④ 本体を軽く回し、確実に取り付いていることを確認します。
本体が回る場合は、「カチッ」と音がするまで本体を回します。

> ⚠ 注意
> 本体がフロントガラス取付部に正しく取り付けられていない場合は、電源投入後に中央ボタンが緑色に点灯し、5秒後に「ピッピッピッ・・・」と鳴ります。この状態では、記録動作ができませんので、注意してください。

本体の角度は、車載モニターに接続後、画角確認画面を見ながら調整してください。「画角を調整する」➔18ページ参照

2 専用電源ケーブルおよび専用AVケーブルを接続する

「ステップ2 本体を取り付ける」の手順4以降(➔11 ～ 13ページ)参照

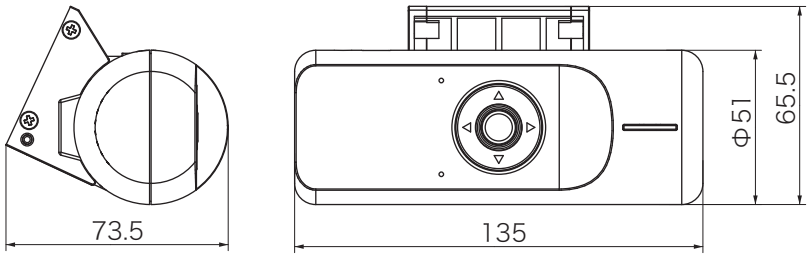
ステップ6

仕様

■製品仕様

名称		ドライブビューワー
型式		DV-01
設置場所		自動車内
電源		DC12～24 V（マイナスアース）
消費電力		6 W（Max）
使用温度範囲		-20～+70℃
使用周囲湿度		90%RH以下（結露しないこと）
保存温度範囲		-25～+75℃
カメラ部	撮像素子	CMOSカラー
	画素数	32万画素
	画角	水平114°、垂直91.6°、対角131.3°
記録部	記録内容	映像、音声、時刻、記録要因
	記録シーン数	5シーン（2シーンまで保護可能）
	記録時間	検知前8秒、後5秒、計13秒
	画像解像度	360×240ピクセル
	記録速度	10枚/秒
入出力端子	電源入力ジャック	2極ピンプラグ
	AV出力ジャック	4極ミニプラグ
付属ケーブル	専用電源ケーブル	2極ピンプラグ－シガープラグ（長さ5m）
	専用AVケーブル	4極ミニプラグ－RCAプラグ×3（長さ5m）
本体寸法（W×H×D）		135 × 65.5 × 73.5（mm）
質量		180 g（本体）

■外形寸法図



単位：mm

困ったときは

異常状態	原因	対処	参照
電源が入らない。(Gモニタ表示灯が点灯しない)	配線が正しく接続されていない。	ケーブルを確実に差し込んでください。	P.11〜P.13
	専用電源ケーブル以外のケーブルを使用している。	必ず専用電源ケーブルを使用してください。	P.11
	ヒューズが切れている。	シガープラグおよび車両のヒューズを点検し、切れたヒューズを交換してください。	P.11
映像の記録ができない。	電源を入れて、すぐに記録した。	電源を入れた直後(Gモニタ表示灯が全色点灯している間)は映像の記録ができません。	P.20
	衝撃が小さいため検知しない。	手動記録で記録してください。	P.20
	再生/設定状態になっている。	記録動作状態で使用してください。	P.14
上書きされない映像がある。	画像が保護されている。	再生画面から保護を解除してください。	P.23
画像が映らない。	配線が正しく接続されていない。	専用AVケーブルを確実に差し込んでください。	P.12 P.13
	専用AVケーブル以外のケーブルを使用している。	4極ミニプラグは端子が異なる種類のものがありますので、必ず付属の専用AVケーブルを使用してください。	P.12 P.13
	再生/設定状態になっていない。	中央ボタンを約2秒間長押しし、再生/設定状態(中央ボタンが緑色に点灯)にしてください。	P.14
	車載モニターまたは家庭用テレビの入力切替が間違っている。	DV-01を接続した入力チャンネルに切り替えてください。	–
	NTSC以外の車載モニターまたは家庭用テレビに接続している。	NTSCの車載モニターまたは家庭用テレビを使用してください。	–
	車載モニターに視聴制限がかかっている。	接続する車載モニターによっては、サイドブレーキを引いている、停止しているなどの状態でないと、映像が映らないものがあります。自動車の状態を車載モニターが映る条件にしてください。	–

異常状態	原因	対処	参照
音声が聞こえにくい、または聞こえない。	配線が正しく接続されていない。	専用AVケーブルを確実に差し込んでください。	P.12 P.13
	オーディオの音量が小さい。	オーディオの音量を調節してください。	–
	オーディオが消音(ミュート)になっている。	オーディオの消音(ミュート)を解除してください。	–
	専用AVケーブル以外のケーブルを使用している。	必ず専用AVケーブルを使用してください。	P.12 P.13
ノイズ音がする。	専用AVケーブル以外のケーブルを使用している。	必ず専用AVケーブルを使用してください。	P.12 P.13
	専用AVケーブルの接続先が間違っている。	赤と白色プラグをオーディオの音声入力端子に接続してください。	P.12 P.13
	妨害ノイズを受けている。	携帯電話や無線等の機器から離して使用してください。	–
中央ボタンが緑色に点灯し、「ピッピッピッピッ・・・」と鳴っている。	本体がフロントガラス取付部に正しく取り付けられていない。	取り付け状態を確認し、正しく取り付けてください。この状態では、記録動作ができません。	P.10 P.19
	家庭用テレビで記録画像を見るとき、確認画面で[はい]を選んだ。または5秒間操作をしなかった。	[いいえ]を選び中央ボタンを押してください。 ※ [はい]を選んだ場合は、中央ボタンを長押ししてください。	P.26
画像が不鮮明。	カメラの前に障害物がある。	カメラの前の障害物を取り除いてください。	P.9
	フロントガラスが汚れている。	フロントガラスの汚れを取り除いてください。	P.9
	カメラが汚れている。	柔らかい布でカメラを拭いてください。 硬い布で拭くと、傷がつきますので使用しないでください。	P.7
	フロントガラスに水滴や油膜がついている。	フロントガラスの水滴や油膜を取り除いてください。	–
	暗い環境(夜間など)で記録した。	画像を記録するには、ヘッドライト照射程度の明るさが必要です。	–
	太陽が映っている。	太陽光が直接入る環境下では画像が不鮮明になる場合があります。	–
	妨害ノイズを受けている。	携帯電話や無線等の機器から離して使用してください。	–
画面がチラつく。	蛍光灯で照らされた部分やLED信号を映したために現れるフリッカ現象である。	故障ではありません。	–
画面に白点、または黒点が出る。	カメラ特有の現象である。	故障ではありません。	–

異常状態	原因	対処	参照
記録映像がコマ飛びする	電源を入れてすぐに記録し、エンジンをOFFにした。	故障ではありません。	−
記録画像のはじめの数秒間、画面が緑色になる。	記録動作状態にしてから8秒以内に検知させた。	故障ではありません。	−
画像の記録時間が短い。	検知記録中に再び検知させた(多重検知)。	続きをご覧になるには、次の記録画像を選択して再生してください。	P.23
画像が記録されやすい、または記録されにくい。	感度が合っていない。	感度をお好みの設定に切り替えてください。	P.17
しばらく操作をしないと画面が消える。	メイン画面で30秒間操作をしないと自動的に記録動作状態に切り替ります。	中央ボタンを約2秒間長押しし、再生/設定状態(中央ボタンが緑色に点灯)にしてください。	P.14
画面の一部が切れる。	車載モニターまたは家庭用テレビによっては映像が一部切れることがあります。	ワイドモニターの場合、画面モードを切り替えると解消される場合があります。	−
時計が大幅にずれている。	しばらくの期間、電源を入れなかった。	日時を再度設定してください。	P.16
本製品を接続したらバッテリーがあがった。	エンジンキーを切ってもシガーソケットから電源が供給される車種に取り付けている。	そのような車種の場合は、走行時以外はシガーソケットから専用電源ケーブルを抜いてください。	P.11
テレビの映りが悪くなった。	テレビアンテナの近くに本体を設置した。	テレビアンテナを本体から離した場所に設置してください。	P.10

対処方法を試した上で、それでも異常状態が改善されない場合は、販売店または当社に点検・修理を依頼してください。

DV-01　保証書

お買い上げ日		年　　月　　日
保証期間		**お買い上げより1年間**
お客様	ご住所	〒　　TEL.
	ご氏名	様
お買上げ店	住所	〒　　TEL.
	店名	

〈保証規定〉

Ⅰ. 保証の範囲

1. 取扱説明書に記載された正常な状態で、保証期間中に万一故障を起こした場合、無償にて修理いたします。お買い上げ店もしくは弊社へ本書を添えてお申し付けください。
2. この保証は保証書に記載された製品について日本国内に限り適用いたします。
   This warranty is valid only for Japan.

Ⅱ. 保証の条件

次に該当する故障は、保証期間中で(お買上げ日より1年間)であっても実費にて修理を申し受けることがあります。

1. あやまった取り扱い、不当な修理・改造を受けた製品の故障、また故意・不注意による破傷に起因する故障。
2. 災害など不可抗力による破傷。
3. 本書に必要事項の記入が無い場合、また本書の提示が無い場合。

オプテックス株式会社 STP事業本部

本　　社：〒520-0101　滋賀県大津市雄琴5丁目8番12号
TEL(077)579-8890　FAX(077)579-8136
東京営業所：〒160-0023　東京都新宿区西新宿 6-14-1 新宿グリーンタワービル19F
TEL(03)3344-5773　FAX(03)3344-5734

59-1440-1 2008.4